



第7回かながわ教育学講座 「インクルーシブ教育」

令和4年11月6日(日)、
第7回かながわ教育学講座を
開催しました。



総教C
キャリアクター

神奈川県におけるインクルーシブ教育の特色や実際の取組について知り、教育のユニバーサルデザイン化について理解を深めました。

インクルーシブな学校づくり

平成27年に示された「かながわ教育ビジョン」において、「インクルーシブ教育の推進」を打ち出し、現在すべての学校において「支援教育」の理念のもとにインクルーシブな学校づくりを推進しています。

支援教育の対象は、
「各学校に在籍する全ての子どもたち」

神奈川県が推進している「支援教育」とは、子ども一人ひとりが抱える「自分一人では解決することが困難な課題」に応じて支援を行うことです。

捉えを変える

困った子ども

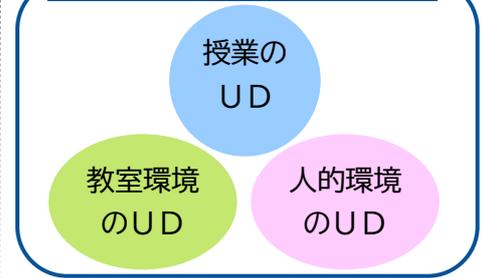


困っている子ども

子どもの捉えが変わると、「子どもを変える」から「環境を整える」という支援の考え方に変わります。

子どもに寄り添う視点を持つことが、より子どもの深い理解や支援につながります。

教育のユニバーサルデザイン



教育のUDとは、「より多くの子どもたちにとって、わかりやすく、まなびやすく配慮された教育のデザイン」です。「授業のUD」「人的環境のUD」「教室環境のUD」の3つの柱で考えることができます。

第8回かながわ教育学講座 「児童・生徒指導」

令和4年11月20日(日)、
第8回かながわ教育学講座を開催しました。



神奈川県立総合教育センター
加藤 教育指導専門員

「児童・生徒指導」の理解のために、講義の中では「いじめ」をテーマに取り上げました。法による「いじめ」の定義（「いじめ防止対策推進法」平成25年6月28日公布）を確認した上で、いじめの早期発見・対処について話がありました。

「孤立化」、「無力化」、「透明化」という段階で進んでいく「いじめの芽」。私たち教員はいじめの芽生えの部分「孤立化」に最大の注意を払い、「いじめの芽」を摘むことが大切です。

「いじめの芽」にいち早く気付くためには、積極的に知識を取り入れながら、イメージできる力・感性を高めることが必要です。

アンテナを高く持ち、心にかかることはすぐ対応できる子どもを守るプロとしての資質・能力を高めていきましょう。

ロールプレイを通して

講義の後のグループ活動では、「いじめ」を題材とし、小グループで教員役、児童・生徒役（加害者、被害者、傍観者）になり、ロールプレイをしました。



第9回かながわ教育学講座 「道徳教育」

令和4年12月4日（日）、
第9回かながわ教育学講座を
開催しました。



「特別の教科 道徳」と「道徳教育」

学習指導要領の改訂のポイントとして、すべての校種において「道徳教育の充実」が掲げられています。

道徳教育の充実が求められる背景を確認しながら、いま求められている道徳教育や道徳科の授業について理解を深めました。



神奈川県立総合教育センター
野口 教育指導員

道徳教育は、道徳科を要として
学校教育全体を通じて行うもの

道徳性を
養うため
のポイント

- 道徳的判断力
- 道徳的心情
- 道徳的実践意欲と態度

道徳科の目標

- 道徳的価値の理解
- 自己を見つめる
- 物事を多面的・多角的に考える
- 自己の生き方について考えを深める

「考え、議論する」道徳の実現に向けて

授業
構成

質的
転換

発問

第10回かながわ教育学講座 「学校教育における人権」

令和4年12月18日（日）、第10回かながわ教育学講座を開催し、講師に認定NPO法人エンパワメントかながわ理事長 阿部 真紀先生をお招きしました。

自分で自分を大切にしてい

子どもの人権を守るために教員として身に付けておくべき「人権感覚」や「子どもの人権を守ること」について、話がありました。

人権とは、「一人ひとりがとても大切な人である。」「すべての人は対等である。」「一人ひとりが違っていい。」ということであり、教員のちょっとした言葉かけが児童・生徒の人権を知らずに傷つけている可能性があることに改めて気づく機会になりました。

子どもの人権を守るためには、アドバイスよりもその人の気持ちをつかろうとする姿勢で耳を傾け、その人の力を信じること（エンパワメント）が大切であるという教員としての姿勢についても学びました。

その後のグループ活動では、子どもの人権が尊重されていない場面を考え、改善策について話し合いました。グループで内容を共有することで、自分では気づかない場面や改善策に気づく様子が見られました。互いの考え方や感覚の違いに気づく中で、より一層人権感覚を磨いていってほしいと思います。



一人ひとりが大切な存在

「すべての人は対等である。」
「一人ひとりが違っていい。」

